日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	トータル・プロデュース4

科目基礎情報

開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1単位			授業形態	演習
教科書/教材	資料は必要に応じて配布します。				

担当教員情報

担当教員	鈴木一義・永田志実	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン

学習目的

国内における音楽制作環境の多くは、プライベートスタジオと呼ばれる自宅などを中心としたDAW環境に移行されている。１年次では、限られた制作環境の中でいかにクオリティの高い作品を生み出すかについて実践的なアプローチを習得してきた。２年次では、ミックスアプローチをさらに深く掘り下げて、より立体的な音場作りを習得する。また、録音時の集音方法によるサウンドの違いを理解し、実践的なミックスに取り入れる。さらにマスタリングの基礎を学び、完全なパッケージとしてクライアントの要望を的確に捉え、作品のクオリティをさらに高める方法を習得する。

到達目標

楽曲制作のポストプロダクションの過程となるミックスの構造を理解し、自身の楽曲におけるミックスアプローチの向上、さらに録音した音をより立体的な音場作りを行う方法の習得を目指す。
音作りにおいて重要となるエフェクト効果の知識を深め、楽曲に合わせたサウンドメイクを行うこと、マスタリング基礎知識を学び、録音ーミックスーマスタリングのプロセスを経て、自身で作品をパッケージ化するまでの方法を習得することを到達目標とする。

教育方法等

授業概要	この授業では、１年次に習得したレコーディング技術をさらに深めるとともに、コンプレッサーやイコライザーなどのダイナミクス系エフェクトプラグインやディレイやリバーブなど空間系エフェクトプラグインの使い方を理解し、自作曲にフィードバックする技術力を身につける。また、必要に応じて、マイクプリアンプやコンプレッサーの実機を使用し、適正レベルでのレコーディングを行える技術力を習得する。最終的には一般に流通している音源と差異のないレベルの作品を仕上げることを目的とする。
注意点	授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ→標準フォンプラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。授業時数の4分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価方法	種別	割合	備　　考
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する
	成果発表（口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

授業計画（1回～15回）

回	授業内容	各回の到達目標
1回	DAWルームでの環境作り	各自のDAW環境に合わせ、DAWルームでレコーディングが行えるよう正しい知識を身につける
2回	ボーカルディレクション(1)	CM音源など、短い作品を録音する際のボーカルレコーディングを身につける
3回	ボーカルディレクション(2)	ボーカル曲など、一般的な作品を録音する際のボーカルディレクションを身につける
4回	オリジナルループの作成(1)	環境音やノイズなど、独自の素材を使用しループ素材を制作する
5回	オリジナルループの作成(2)	環境音やノイズなど、独自の素材を使用しループ素材を制作する
6回	リバーブ(1)	ホールリバーブ、ルームリバーブを理解する
7回	リバーブ(2)	プレートリバーブ、ゲートリバーブを理解する
8回	ディレイ	ディレイの特徴、使用法を理解する
9回	トラックダウン(3)	自作曲に対してのミックスアプローチを理解する
10回	トラックダウン(4)	自作曲に対してのミックスアプローチを理解する
11回	マスタリング(1)	マスタリングの必要性を理解する
12回	マスタリング(2)	マスタリングスタジオにおける実作業を理解する
13回	マスタリング(3)	マスタリングの調整法を理解する
14回	トータル・プロデュースとは	年間を通した授業内容のまとめ、及び作品に対する総合的な判断力を身につける
15回	総合試験(発表会)	作品に対する総合的な発表力を身につける